

# 浦和ゆかいの

# 文芸マップ

## 浦和駅西口から別所沼

③石井桃子 児童文学作家・翻訳家・小説家・編集者。明治40年 旧浦和市生まれ。「ノンちゃん雲に乗る」「くまのプーさん」回想記「幼ものがたり」は作者の幼い頃の日々や、昔の浦和宿の北のはずれあたりにあった家のまわりの様子も鮮やかに描かれている。

たさ  
まさい  
さしきた  
ちいたま  
あにまの  
れ 譜

①宮沢章二  
「さいたまの譜」の詩碑  
浦和駅西口  
(大正8年～平成17年)羽生市生まれ。詩人・童謡・合唱組曲など作詞

秋 生涯  
天の影ある  
地かな  
かな女

### ④童話碑

常盤公園内  
長沼依山  
口演話家として  
全国行脚・童話作家・浦和幼稚園開設



吾童魅母幼  
ハレ話いのき自  
十はのさお日詠  
翁老道れとき  
いにてぎ  
依ゆ に  
山く  
書

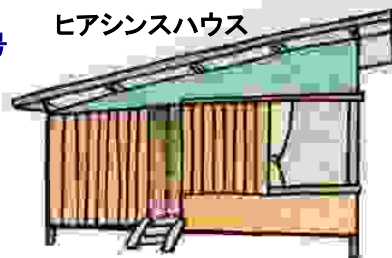


### ②長谷川かな女の句碑

調神社境内 自筆  
俳人。(明治20年～昭和44年)東京生まれ。昭和3年夫零余子を病気で亡くし、2ヶ月もたたぬうち家が全焼、その後岸町に移り住み、生涯をくらし。昭和5年に「水明」を創刊・主宰。

### ⑧立原道造とヒアシンズハウス

立原道造(大正3年～昭和14年)詩人・建築家。神保光太郎とは親交が深かった。別所沼畔に5坪ほどの週末住宅(風信子荘)を建てるための設計をするも、彼は24歳の若さで短い生涯をとじた。平成16年秋にヒアシンズハウスは建設され、新たな市民文化活動の場として活用されている。水・土・日曜日開館。



### ←③



### ⑤旧浦和中学跡

知事公館前  
佐藤紅緑の「あゝ玉杯に花うけて」の舞台。背景の大正時代の浦和町と登場人物が通う浦和中学がよく描かれている。

さいたま市役所  
浦和区役所  
市役所通り

⑥  
現在は神保光太郎の家はありません  
埼玉大付属中

丘 曼珠沙華  
うあつ  
かせけり まり  
かな女

羊ひ水神め沼の  
のと面をぐの  
孤ひにおりほ  
冬断章より 独らのるふならを  
雲

### ⑦神保光太郎の詩碑

別所沼公園内 自筆  
詩人。(明治38～平成2年)山形市生まれ。29歳の時から別所沼近く⑥に住み、家から坂を降りたところにある別所沼をよく散歩していたという。浦和の学校の校歌も数多く作詞。

### ⑨長谷川かな女の句碑

別所沼公園内  
その頃別所沼の西側は小高い丘があり、曼珠沙華がたくさん咲いていたという。